

②過密市街地

木造低層住宅、狭隘道路、広場空間の少ないまち等、過密市街地がみられる。

これらの市街地では、地震時に安全な避難路が確保できなかつたり、火災による延焼など、被害が拡大することが予想される。



図 過密市街地地区



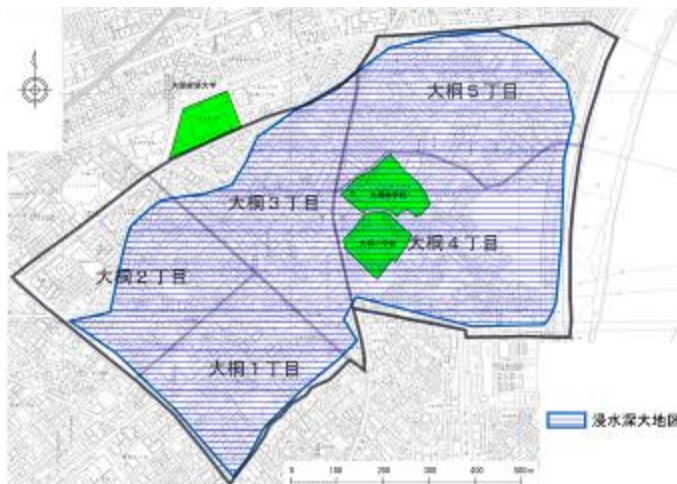
作図) 岡本

図 浸水深の大きな地区

③浸水深の大きな地区

外水氾濫時に浸水深が3m以上となる区域では、木造2階建て住宅や中高層住宅の低層階が浸水することが予想される。

特に浸水深の大きな地区として、浸水深が3m以上となる区域をとりあげた。



作図) 岡本

図 液状化危険性地区

④液状化危険地区

地盤の液状化の危険性が高い区域を液状化危険地区としてとりあげた。

地震時には、建物被害のほか、道路陥没、噴砂現象など地盤に変状をきたすことが知られている。



作図) 岡本

⑤ 3階以上の建物の少ない地区

洪水時の避難先を3階以上の中高層建物と想定した際に、避難候補の対象となる建物が少ない地域にあっては、当該地区外に避難先を見いだす必要がある。

この、候補となる垂直避難先の建物の少ないまちをとりあげた。

図 3階以上の建物の少ない地区



作図) 岡本

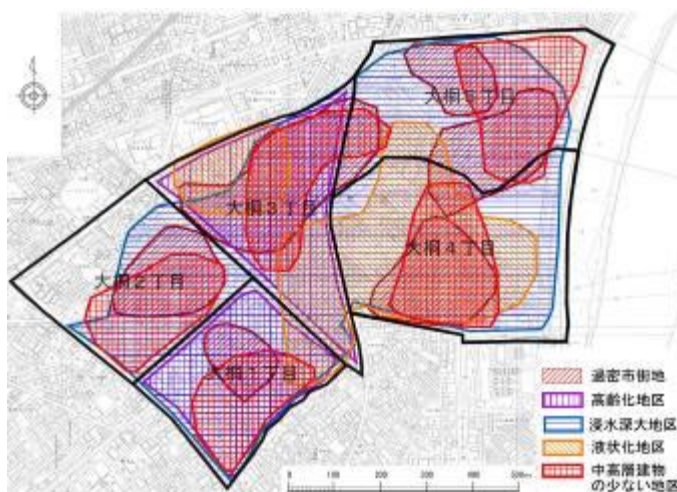
⑥ 地域の総合的防災課題

これまでの課題を1枚の図面に集約したものが、総合的防災課題図である。

この図に表示している事項以外にも、遠距離避難地区など様々な防災上の課題が地域にあるが、ここでは、煩雑さを避けて基本的な事項の表示に留めた。

この結果、本地域にはいずれの地区にも課題があり、多くは重なっている。

図 総合防災課題図



作図) 岡本